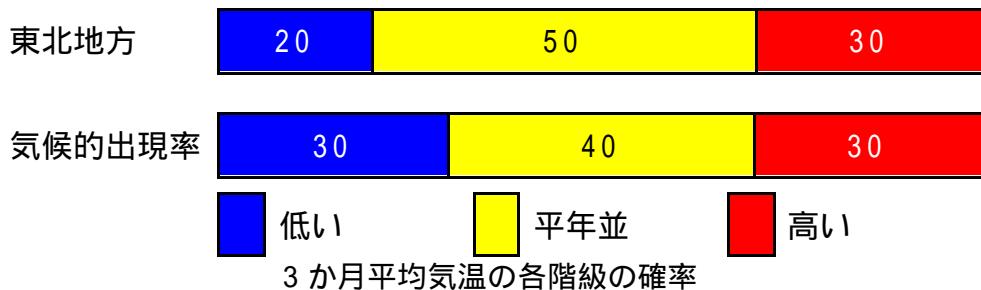


東北地方 3か月予報(5~7月)の解説

平成12年4月20日 仙台管区気象台

1. 予想される天候

(1) 3か月平均気温の予想される各階級の確率(%)



[概要]

5~7月の3か月平均気温は、「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「高い」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「低い」の可能性は小さく、その確率は20%です。

(2) 可能性の大きな天候の特徴

	5月	6月	7月
気圧配置	低気圧と高気圧が交互に通る	梅雨前線や低気圧 オホーツク海高気圧	梅雨前線や低気圧 オホーツク海高気圧 太平洋高気圧
天 気	東北地方は、平年と同様に移動性高気圧に覆われ晴れの日が多いでしょう。晩霜の恐れがあります。	東北日本海側は平年と同様に天気は周期的に変化するでしょう。東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。また、オホーツク海高気圧の影響で、一時寒気が入る見込みです。	東北日本海側は平年と同様に天気は周期的に変化するでしょう。東北太平洋側は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。また、オホーツク海高気圧の影響で、一時寒気が入る見込みです。
気 温	平年並 気温の変動が大きい	平年並 気温の変動が大きい	平年並 気温の変動が大きい
降 水 量	平年並	平年並	平年並

なお、5~7月の3か月間の降水量は「平年並」の可能性が大きいでしょう。

<参考資料>

平年のおよそその天気出現割合(%)

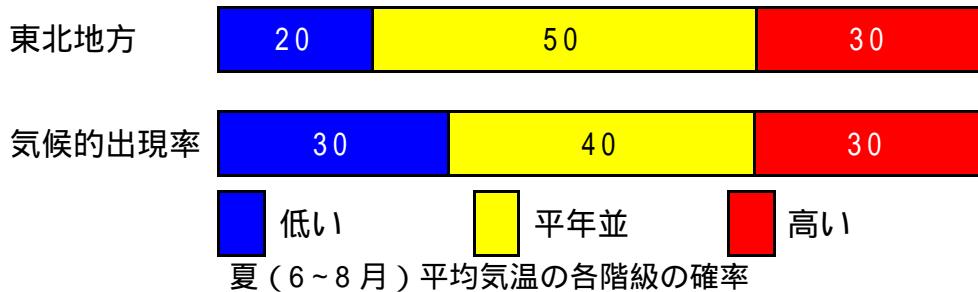
	5月		6月		7月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	61	62	52	47	50	44
雨の日	32	29	35	35	36	36

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」を晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。日照率は、1日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

2. 前回(3月21日)発表の3か月予報からの変更点 なし

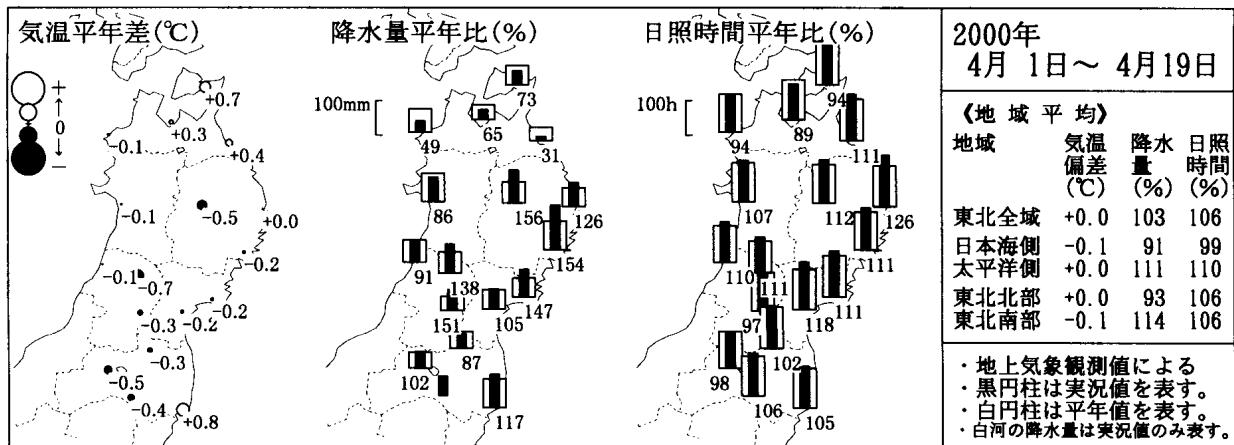
3. 夏(6~8月)の天候の見通し

最近の天候経過等をふまえて検討しましたが、3月13日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。



4. 最近の天候経過と循環場の特徴

(1) 最近の天候経過



東北地方における4月(1~19日まで)の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

4月(19日まで): この期間の東北地方の平均気温平年差は0.0と平年と同じだった。降水量は、東北日本海側で平年比91%と平年を下回り、東北太平洋側で平年比111%と平年を上回った。日照時間は、東北日本海側で平年比99%と平年を下回ったが、東北太平洋側で平年比110%と平年を上回った。

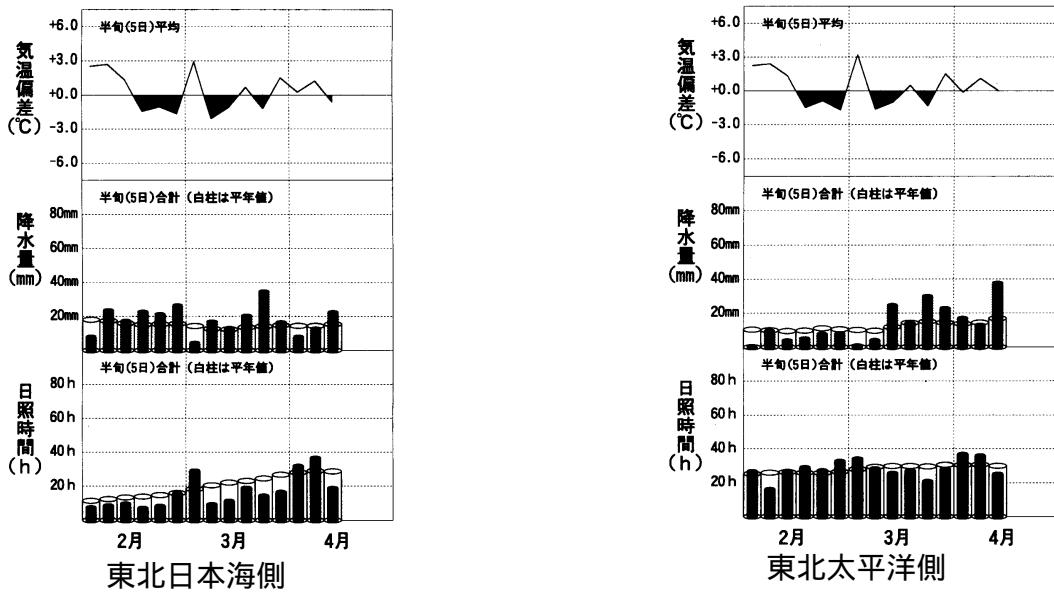
上旬は低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。1日は低気圧の通過後上空に寒気が入り、雨や雪となった。5日、10日には本州の南岸と日本海を低気圧が進み、広い範囲で雨となった。その他の日はおおむね移動性高気圧に覆われて晴れた。

東北地方の上旬の平均気温平年差は+0.5と平年並、降水量平年比は94%と平年並、日照時間平年比は120%と多かった。

中旬、前半は上空の寒気に対応した低気圧が沿海州付近に停滞し、天気は短い周期で変わった。特に、11日は盛岡で5cmの降雪を観測した。後半は、15日に本州の南岸を進んだ低気圧の通過後に強い寒気が入ったため、気温の低い日が続き、東北日本海側を中心に天気はぐずついた。

東北地方の中旬(11~19日)の平均気温平年差は-0.7と平年を下回り、降水量平年比は115%と平年を上回り、日照時間平年比は東北日本海側で平年比76%、東北太平洋側で平年比99%と共に平年を下回った。

さくら(ソメイヨシノ)の開花は、小名浜で8日(平年より1日早く、昨年より6日遅い)、福島で13日(平年より2日遅く、昨年より8日遅い)、仙台で13日(平年より1日早く、昨年より5日遅い)、酒田で18日(平年より1日遅く、昨年より5日遅い)と平年並だった。

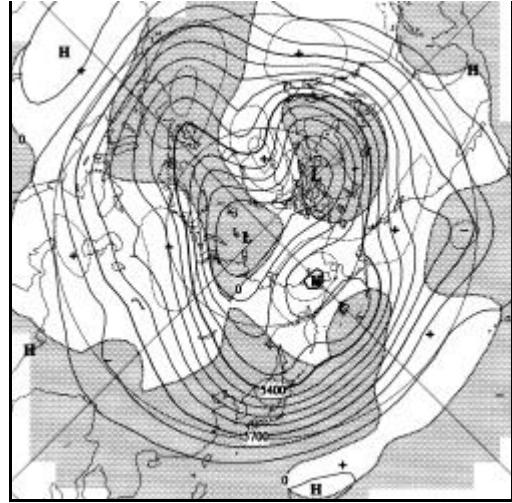


半旬経過図

(2) 中・高緯度の循環

4月(19日まで): 極渦は、タイミル半島とクイーンエリザベス諸島にあって、シベリア東端にはブロッキング高気圧があり、日本付近は気圧の谷となって、東西に広く負偏差域に覆われた。

上旬(これ以降図略)は、日本付近の偏西風の蛇行は小さく流れは順調で、日本の南から東海上にかけては正偏差に覆われた。しかし、中旬にはシベリア東部にブロッキング高気圧、沿海州やアリューシャン列島付近に低気圧と偏西風の蛇行が大きくなり、北日本を中心に寒気が入りやすくなった。



4月1~19日平均 500hPa 天気図

等高度線間隔 60m

陰影部は平年より高度が低い領域

(3) 熱帯太平洋の状況

エルニーニョ監視海域(北緯4度～南緯4度、西経150度～西経90度)の3月の海面水温偏差は、-0.3であった。3月の太平洋赤道域の海面水温は、東経150度から西経110度にかけてと西経90度以東で平年より低く、東経165度から西経140度にかけて-1以下の負偏差が見られた。一方、東経145度以西では+0.5以上の正偏差が見られた。

3月の南方振動指数は+1.0(暫定値)であった。

(南方振動指数は貿易風の強さの目安であり、正(負)の値は貿易風が強(弱)いことを示す。)

エルニーニョ監視指数

エルニーニョ 監視海域	1999年											2000年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
月平均海面水温()	26.7	26.4	25.5	24.8	24.0	23.8	23.6	23.2	23.4	23.8	25.3	26.6			
平年偏差()	-0.4	-0.2	-0.6	-0.4	-0.6	-0.8	-1.0	-1.4	-1.5	-1.6	-0.9	-0.3			
5か月移動平均()	-0.4	-0.3	-0.5	-0.5	-0.7	-0.8	-1.1	-1.2	-1.2	-1.1					
南方振動指数	+1.8	+0.3	+0.1	+0.6	+0.0	-0.1	+1.1	+1.1	+1.5	+0.4	+1.1	+1.0			

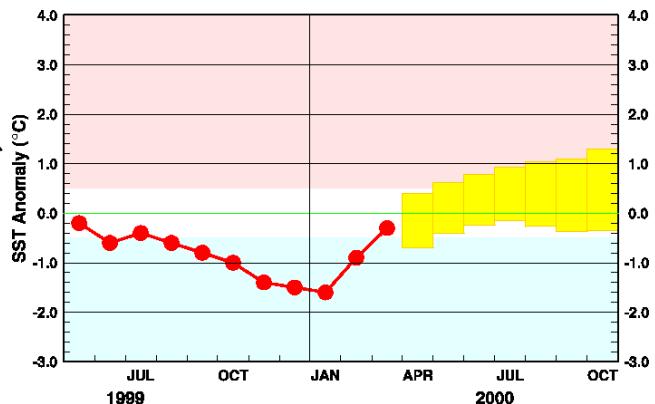
注：海面水温の平年値は、1961～1990年の30年平均値である。

(4) エルニーニョ監視海域の海面水温の今後の見通し(2000年3月～2000年9月)

現在発生しているラニーニャ現象は、夏までに終息し、夏以降エルニーニョ監視海域の海面水温は平年並で経過すると予測される。

【解説】

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が今後平年並からやや高めの状態に推移すると予測している。ここ数か月、東部太平洋赤道域の海面水温は急速に平年値に近づいており、この海域の表層水温も平年値に近づいている。しかし、貿易風は東部太平洋を除けば依然として平年より強く(南方振動指数+1.0)、西部太平洋赤道域の暖水も目立った東進の兆候が見られない。従って、予測モデルは監視海域の海面水温を夏以降やや高めに予測しているものの、今後数か月以内に監視海域の海面水温が平年値より大幅に高まる要因はなく、予測期間内にエルニーニョ現象が発生する可能性は低い。



エルニーニョ予測モデルによる
エルニーニョ監視海域の海面水温偏差予測

5. 参考資料

	霜			雪		
	最晩年	平年	昨年	最晩年	平年	昨年
大船渡	1985年5月17日	4月21日	4月22日	1989年4月28日	4月 5日	4月 8日
若松	1963年5月26日	5月 3日	5月 1日	1956年4月29日	4月10日	4月 9日
深浦	1953年5月18日	4月15日	4月22日	1989年4月28日	4月 7日	4月 8日
青森	1919年5月27日	5月 3日	4月22日	1983年5月17日	4月12日	4月 8日
八戸	1954年6月 9日	4月22日	4月18日	1971年4月30日	4月11日	4月 8日
秋田	1953年5月20日	4月21日	4月 9日	1890年5月14日	4月 5日	4月 8日
盛岡	1985年6月15日	5月 4日	4月30日	1983年5月17日	4月15日	4月 8日
宮古	1956年5月25日	4月20日	4月30日	1996年5月 5日	4月10日	4月 8日
酒田	1992年5月11日	4月18日	4月22日	1989年4月28日	4月 3日	4月 8日
山形	1942年6月 2日	5月 5日	5月 1日	1892年5月 2日	4月 9日	4月 9日
仙台	1928年5月20日	4月18日	3月24日	1991年5月 3日	4月 4日	4月 8日
福島	1921年6月 4日	4月19日	4月22日	1892年5月 2日	4月 5日	4月 9日
小名浜	1938年5月14日	4月 6日	3月21日	1931年4月12日	3月22日	3月24日

	平年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨入り	昨年の梅雨明け
東北南部	6月12日頃	7月23日頃	6月16日頃	7月24日頃
東北北部	6月14日頃	7月26日頃	6月16日頃	7月26日頃